

# 石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>

石巻専修大学  
広報係  
☎986-8580  
宮城県石巻市  
南境新水戸1番地  
☎0225-22-7717(直)

本 年 4 月、  
創 立 3 0 年 を  
迎 え ま し

## 網地島紹介 サイト作成

### 経営・益満ゼミ



経営学部・益満環ゼミでは学生の視点で、石巻市牡鹿半島沖にある網地島に観光客を呼び込むため、情報通信技術はどのようあるべきかを研究・考察している。4年次

## 観光客の誘致目指す



インスタ映えする場所を探索する  
2年次生=6月9日

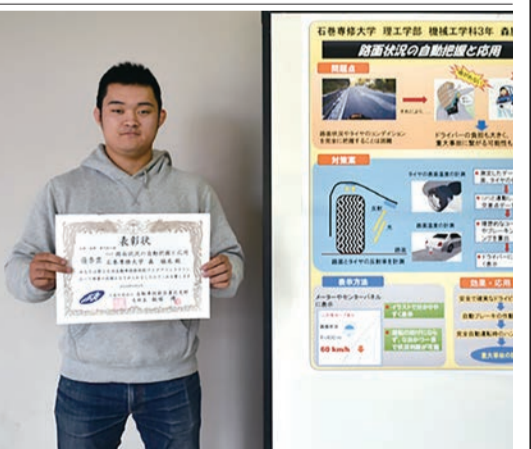
生は昨年、石巻市の「オールドポイント」(Old Point)の作成に取り組み、今年4月から公開している。

「文化・歴史情報」「イベント情報」「船便、島内のバス情報」「宿泊施設などを紹介している。佐藤恭平さん(経営4・岩手県一関第二高)は「徒歩での調査はきつかったが、歩かなければ気がつかない魅力が数多くあった。島の各所にある海を一望できる絶景スポットから、透き通る美しい海の色を見てほしい」と話した。

6月9日には2年次生6人が内容更新のため、同島に渡り探索を行った。今回新たにインスタ映えするスポット、釣り情報、島内のバス運行時間や食事処、自動販売機などの最新情報を写真とともに集めた。

学生が自動車に関する新技術を提案する「第28回自動車技術独創アイデアコンテスト」(主催・公益社団法人自動車技術会東北支部学生自動車研究会)の高専・大学の部門で、理工学部機械工学科

森脇さんが優秀賞  
自動車技術アイデアコンテスト



賞状を持つ森脇さん。右がアイデアをまとめたポスター

「みやぎ県民大学 石巻専修大学開放講座」が6月28日から本学で開講されている(7月19日まで、全4回)。今年度は「あなたの知らないシカ・クマの世界」をテーマに土屋剛理工学部客員教授が講演。地域の方々や学生が聴講し、シカとクマの生態を通して、人と野生動物の共生について学んでいる。

## こめぼこ 第2弾

経営学部の杉田博ゼミが商品化に協力した揚げかまぼこ「こめぼこ」第2弾が7月7、8の2日間、プロ野球の楽天イー

## 楽天公式戦で完売

グルス一軍公式戦が行われた楽天生命パーク宮城(仙台市)で販売され、計1200パックを完売した。

こめぼこは石巻北高校の生徒が収穫したひとめぼれを米粉にし、宮城県水産高校の生徒が魚のすり身に練り込んで誕生させたオリジナルの揚げかまぼこ。高大産連携プロジェクトとして、昨年から楽天野球団と連携協定

を結び、新たな当地名物の誕生を目指す活動に取り組んでいる。2年目の今年は、保存料や着色料・人工甘味料などを使わない無添加の練り物作りこだわった高橋徳治商店(宮城県東松島市)が協力企業となり、プレントタイプのほか具材入りも開発。野菜や海藻など数種類を試作した中から、今回は北海道産コーンを使用したコ

「多くの方に商品を知ってもらえることができた。たくさんの人に声を掛けてもらい、先輩たちが昨年からの積み重ねてきたことが結果していることを実感した」。日野将秀さん(経営2・宮城県田尻さくら高)は「完売できたらうれしい。今度は違う商品開発に携わり、こめぼこのように広めていきたい」と話した。

「毎日、仙台市から自動車通学しており、日ごころからこのような装置があればいいなと思って、今後ことを発表した。今後降、人の手で生物の生息できる環境を整えられたことを知ることができた。今後は環境保全の観点から、海と植物の関係について深く学んでいきたい」と語った。

藤本凛さん(福島県会津学鳳高)は「自然環境に興味があったので、今回の実習は楽しかったです。初めて見た人工干潟に驚いた。生態系を豊かにする環境や方法について学びたいと考えており、得るものが多い実習だった」と話した。

## 石巻の魅力伝える ラジオ番組を制作

### 経営・舛井ゼミ

経営学部・藤優輔さん(宮城県佐沼高)の3人。今年度は「コンテンツ開発による地域情報の発信と地域活性化」をテーマに3回の放送を担当する。

5月25日、石巻駅近くの立町商店街にあるこけし工房「Tree Tree Ishinomaki」を取材。店主の林貴俊さんに話を聞くことにも、新たな名産品として売り出し中の石巻こけしの絵付けを行った。高校の文化祭で動画制

作をしたことからメディアアコンテツに興味をもったという佐藤さんは「石巻こけしにける店主の情熱にひかれました。これからもさまざまな企業と連携し作品を作っていきたい」と意欲的だ。指導にあたっては舛井准教授は「限られた時間と情報の中でリスナーの心に響くことは何かを考え、発信する感性が大切だ」と話す。

初回は7月30日にオンラインされる。

「毎日の生活環境が豊かになることを目指して、人と自然環境に与える影響を解説した。」

「毎日の生活環境が豊かになることを目指して、人と自然環境に与える影響を解説した。」

「毎日の生活環境が豊かになることを目指して、人と自然環境に与える影響を解説した。」



林さん(中央)へのインタビューを収録するゼミ生

「Date fm」(エフエム仙台)のラジオ番組「Hope for MIYAGI」(毎週月曜日12時~12時25分)の制作を手がけている。取材、編集に携わったのは同ゼミの「メディアアコンテツ制作プロジェクト」に所属する2年次生の渡辺満帆さん(岩手県大東高)、木村真陸さん(山形県山形工高)、佐

作をしたことメディアアコンテツに興味をもったという佐藤さんは「石巻こけしにける店主の情熱にひかれました。これからもさまざまな企業と連携し作品を作っていきたい」と意欲的だ。指導にあたっては舛井准教授は「限られた時間と情報の中でリスナーの心に響くことは何かを考え、発信する感性が大切だ」と話す。

初回は7月30日にオンラインされる。



笑顔で販売するゼミ生たち=7月7日

## 食環境学実習 干潟の生態調査



人工干潟で生物を調査する藤本さん(左)

理工学部食環境学科の「食環境学実習Ⅰ」の野1年次生を対象とした「外実習」が6月16日、石巻市の万石浦で行われた。参加した約20人は、玉置仁教授の指導を受けながら、東日本大震災の被害を受けたかつて干潟だった場所と、震災後に造成された人工干潟の生物相と環境の違いを観察。2カ所を比較し、アサリをはじめとした生物の生育環境について理解を深めるとともに、環境保全の重要性を学んだ。

加藤清楓さん(岩手県金ケ崎高)は「人工干潟でアサリなどの生物がたたく確認でき、震災以